

生抜くために

三月二十四日の早朝、出荷停止の翌日、福島有機栽培のキャベツ七千五百個収穫の前に農民が自殺しました。私たちが守るのは原発でなく、住民です。この国は東電や資本家のものではないのです。根本が腐っているのでは。騙されてきた私たち大人は大いに反省し責任を果たさなければなりません。

大きく言えば、メルトダウ

ンで国家存亡の淵に立っているのではないのでしょうか。そもそも私たちの危機感の喪失が、今日の現状を招いたのです。

私たちは資源のない国です。快適な生活、自家用車に大型TVにエアコン、レンジの生活、贅沢に心身が慣れ親しんだのです。

日本に深刻な危機を呼び込んだのです。当然の報いなのでしょう。ここに来て日本人の「火事場泥棒」が進行しているよう。

人災の原発事故で電力が足りないなら、簡単な話、すぐ代替を作れない現状では、消費を抑えるしかないのです。したがって原発で、日本の景気がもう一段

の下降要因が強いのでは。

そして最悪の想定も必要か。

電力消費を抑えるのは無駄を省くだけ



です。各家庭や事業所のアンペアを制限すれば、料金の値上げをせず、不便はあつても大幅に無駄を抑制出来るとの提言もあります。

地球のため、平成の江戸時代、長屋文化の日本を再構築する時代なのでしょう。

先月末二十三年度の予算が通りましたが、思いつきの菅政権は、温泉の湯に浮かぶ澱(おり)のようです。

それに、福島原発三号炉の燃料は水爆の原料プルトニウムと原爆の燃料ウランを混ぜたもの(MOX)を使用するプルサーマル原子炉です。

ガソリンと石油を同時に燃やすストーブの様なものですから、基本的に制御自体が大変難しい炉です。しかし燃料コストは格段に安い。

電力会社は当然コスト重視ですから、内部告発を押さえ込み、安全対策は「お経」のようなものだったようです。今度も管政権の下で結局、東電も「長銀」のように底値で、お土産付で外資(米仏)に乗っ取られるのでしょうか。日本は骨抜きにされた奴隷国家なのでしょう。

菅政権の作業着のパホームンズでなく、的確で機敏な行動が求められますが、欧米は待っていたかようにトップの動きは機敏です。

人災を呼び込む人罪を排し、日本の歴史に学び、力を合わせれば、この国難を超えられるはず。それか属国を認めるかでしょう。国防を外国に依存する思考自体が国難を招いたものです。米国が9・11でイラク戦争を始めたように、世論誘導に追随するのではなく、ここは日本の大きな分岐点です。

もともと困難な道、自主憲法の制定が、日本再生の基礎です。そこに今、未来があると思うのですが。

日本は戦後経済の転換点ではないか。日本はこれ以上の発展は、当分望めそうもない。エネルギー問題は国家の主軸です。食料と同じです。

原発から脱却

過去、太平洋戦争に突入したのは、石油を止められたのが主要因です。今回地震には耐えたが、津波にはひとたまりもない構造、トータルで欠陥原発を

なぜでしょう。日本人自ら先敗戦を含め、自ら徹底的に敗因を分析してこない体質が、国家的DNAとなつていのです。

禍を転じて・に、徹底的に検証し教訓を国民一人々に明らかにすべきです。せっかくのチャンスです。

見たくないものを洗い出し、なぜそうなったかを白昼に曝さなければなりません。これは民族と国家百年のためです。どうも廃棄物のないクリーンエネルギーしか未来への道はないようです。